

「グローバル社会の観光人材育成プロジェクト」

～地域の魅力をグローバルに発信できる人材の育成～

石川県立金沢商業高等学校主幹教諭 南 誠治

教諭 竹川 晃代

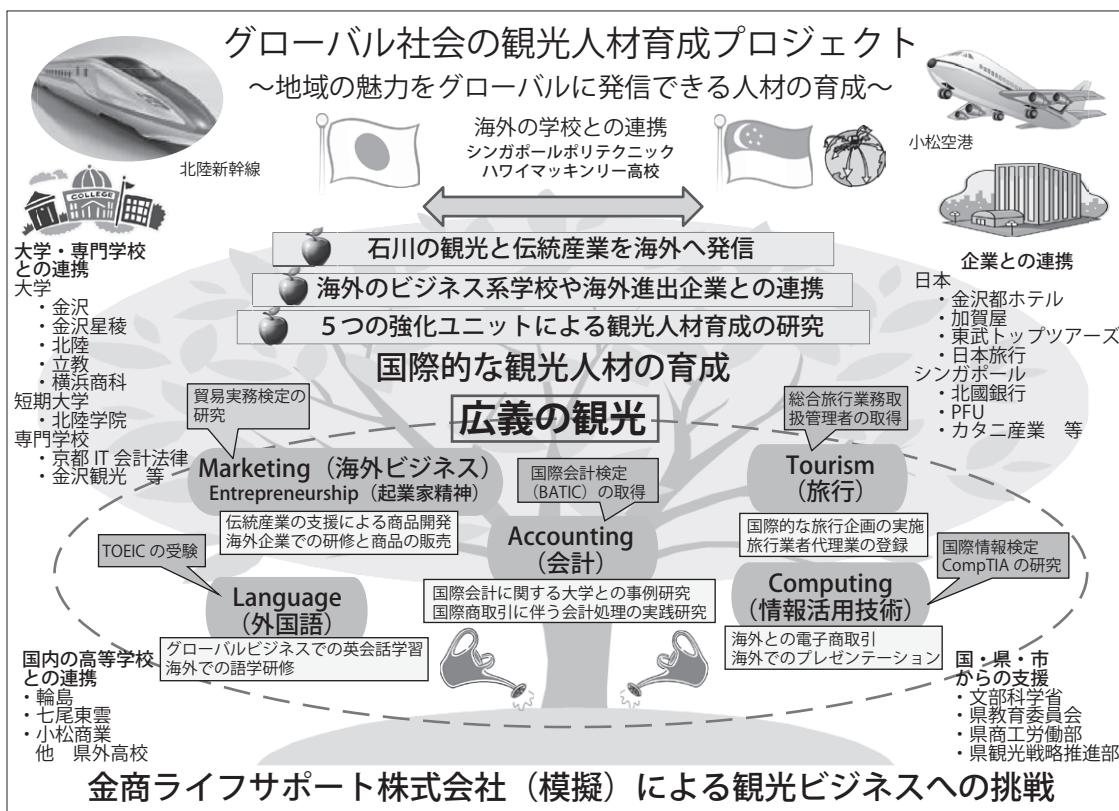
I はじめに

本校は平成26年度より「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業（以下「中核人材事業」と略す）において、「観光」分野での指定を受け、3年間様々な取組を行っている。

本事業は、今後の国の経済発展の先導役となる産業分野や、新たな人材需要の高まりが予想される成長分野において、生徒に必要な実践的な知

識・技術・技能を身につけるための学習システムを構築し、その取組を通じて、中核的専門人材や高度人材の養成を図ることを目的としている。

また、本事業の職域プロジェクト全体では専門学校や大学などを中心に76件が指定を受けており、平成28年度からは新たに2校の高等学校が「食・農林水産」「工業」分野で指定を受け、全部で3校となったが、高等学校での「観光」の指定は今のところ本校だけとなっている。



イメージ図

Ⅱ 背景

本事業名は表題のとおりだが、初年度は「グローバル社会のスペシャリスト育成プロジェクト」としてスタートし、「ツーリズム、外国語、マーケティング、情報、会計」の5つの強化ユニットをつくり、各分野において様々な取組や研究を行ってきた。しかし、2年目からは「グローバル社会の観光人材育成プロジェクト」として、観光により特化した事業として取組むよう変更することとなった。

この観光人材育成が求められる背景には、平成27年3月の北陸新幹線開業後、予想以上に本県への観光客の入込が増加している現状がある。この効果を将来にわたり持続・発展させるため、県の観光戦略に基づき、更なる飛躍を目指して、将来を見据えた施策を展開することとなっており、本校においても、このニーズに応えるため、地域の観光振興に貢献できる「おもてなし」の心（ホスピタリティ）を持った人材の育成が求められている。

背景の2つ目には、政府の成長戦略である観光立国政策によるインバウンドの増加がある。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが控えており、本県においても外国人客の受け入れ体制の充実が急務である。加えて金沢市は国土交通省が全国で3都市を選定した外国人観光客を地方へ誘客する「観光立国ショーケース」都市の1つに選ばれており、観光を取り巻く状況は盛り上がりを見せている。これらのことから、今後さらに外国語でのコミュニケーションスキルを持った人材育成が求められている。

3つ目には、地方創生の視点である。本県の高校生は高い県内就職率を誇っており、特に金沢市は地元就職率が高いことが知られている。その中においても本校の卒業生は特に地元志向が強く、地域の活性化に深く寄与している現状がある。

このような視点から、観光教育で地域を学び、ふるさと石川の魅力を発信できる人材育成が求められており、地方創生に貢献するのは、まさに商

業で行う観光教育であるとの思いをもって事業に取組んでいる。

Ⅲ 広義の観光

商業高校での観光教育というと旅行代理店などへ就職するためと思われるがちである。狭い意味の観光はこの分野を意味するが、広い意味での観光はホテル・旅館などの宿泊業、航空・鉄道・バス等の運輸業、更に飲食店や土産物の販売などのサービス業や製造業まで含まれている。これは、本校が人材輩出している分野と合致しており、まさに商業教育での人材育成が求められている分野であるといえる。

Ⅳ 本校の観光教育

本校の観光教育の特徴は、体験型学習と国家資格取得の2つの柱があり、この両輪がうまく回るように取組んでいることであると思う。

1 体験型学習

(1) 高校生ガイド

県外の修学旅行生を対象に、兼六園や茶屋街などの観光ボランティアガイドを行っている。金沢市観光交流課から提案があり、平成23年度より実施し今年で6年目となった。金沢市ボランティアガイド「まいどさん」から指導を受けながら、ガイド原稿を作り、コースを組み立てている。



まいどさんからの指導

商業の学校設定科目「観光実務Ⅰ・Ⅱ」の授業選択者は全員観光研究部に所属させ、現在39名で活動している。当初は年1校の受け入れであったが、北陸新幹線開業に伴って、今では12校と年々増え続けている。

この受け入れ増加の理由としては、平成25年

度より首都圏で行う石川県や金沢市の修学旅行誘致活動に生徒が同行し、学校や旅行会社を訪問し高校生ガイドのPR活動を行っていることがあげられる。



首都圏での修学旅行誘致活動



修学旅行の受入が決定すると、当日に向けて準備を行うことになる。1校当たり20班前後、1班あたり6～7名をガイド1名が担当する。以前は複数名でのガイドであったが、今は1人で行わせるようにしている。



高校生ガイドの様子

当日は集合場所で対面式、次に班ごとに自己紹介を行い、準備した学習シートを配布してスタートする。最後にはアンケートを記入してもらい、次回への改善と評価に繋げている。また、本校の模擬株式会社に開発した入浴剤などをお土産として渡している。

アンケート集計の結果では、高校生ガイドについて88.9%がよかったという評価をいただいている。

(2) 旅行商品の開発

体験型学習の2つ目には、旅行商品の開発があ

る。旅行会社の協力により、地元の金沢ツアーと県外バスツアーを企画・実施している。

① 金沢周遊バスツアー

平成24年度より地元を学習した成果の実践の場として実施している。

平成26年度からは今年度の「さんフェア石川」での実施を視野に企画し、初めて金沢を訪れる人をターゲットにしたプランを次の2コースで実施した。



さんフェア石川でのバスツアーのチラシ

各コースとも兼六園・金沢城公園を案内し、1つ目のコースは、金箔貼り体験、近江町市場に行き、昼食に海鮮丼を食べる企画で、2つ目のコースは、主計町・東茶屋街を散策後、郷土料理である笹ずし体験をし、治部煮とともに食べる企画であった。生徒のガイドにより車窓より観光を楽しんでもらえたと思う。



バスツアーの様子

② 県外バスツアー

平成23年度より、国内旅行業務取扱管理者試験に向けた取組で学んだ各地域や旅行業法等の知識を活かしたツアーを実施している。予算的に近

県での実施となるが、企画は3年生が1人ずつ行い、旅行会社にもアドバイスをいただきながら1つのプランに決定し、一般の方を対象にツアーの募集をしている。実際の運営・添乗は2年生が行っており、貴重な実地体験の場となっている。

広告も自分たちで作成し、散策する観光地では自作の地図を作成し、バスの中ではガイドはもちろん、クイズを行い、お客様に楽しんでいただけるよう工夫している。

(3) 外国人向け石川県ツアーの開発

魅力ある観光資源について調査するため、高大連携事業として、大学生や専門学校生とともに能登・加賀でのフィールドワークをそれぞれ実施した。この調査は年に2回本県を訪れるシンガポールのテマセク・ポリテクニク校の旅行プランとして提案している。

2 国家資格取得

旅行業に必要な資格として国内旅行業務取扱管理者試験と総合旅行業務取扱管理者試験があり、平成19年度入学生より取り組んでいる。試験の内容は高校生でも取り組むことができるもので、全国の観光地を学ぶこともでき、観光コースだけでなく社会人として必要な知識の習得として捉えている。

年度	国内		総合	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
26	18	8	6	5
27	32	12	9	3
28	21	9	10	2

過去3年間の合格者数

(1) 国内旅行業務取扱管理者試験

平成20年度より2年生で選択する「観光実務Ⅰ」で学習し、受験している。4月から約半年間、3単位の授業では大変難しい面があるが、夏休みを利用して補習を行い受験に至っている。27年度は過去最高の12名が合格し、初の1年生合格者も出た。

(2) 総合旅行業務取扱管理者試験

平成21年度より3年生で選択する「観光実務Ⅱ」で学習し、主に前年度の国内旅行業務取扱管理者試験に合格している生徒が受験している。

近年は、2年生での受験希望者が多く、放課後等を利用して国内旅行業務の学習と並行して行っている。平成26年度は過去最高の5名が合格し、初の2年生での合格者を輩出することができた。

V グローバル人材育成

(1) シンガポールとの交流

本県では平成26年10月よりシンガポールに県事務所を開設している。東南アジア経済の中心地であること、教育システムで学べることが多いこと、観光立国を標榜し観光教育の視点で学ぶものが多いこと、治安が安定していること等の理由により、関係者の紹介を受け、本事業において「テマセク・ポリテクニク校」（日本の高等専門学校にあたる）との交流を進めてきた。

本校からの訪問だけではなく、平成27年からは年2回ずつ、約40名の学生が本県を訪れるようになり、本校における授業体験や観光ガイド、旅行プランの提案などを通して交流を深めている。シンガポール研修に参加する生徒や観光研究部の生徒だけでなく、全校生徒で、おもてなしをしており、今年度は生徒の家庭で40名のホームステイを受入れるなど、今後も更に交流が深まると期待している。



テマセク・ポリテクニク来校

① 事前学習

シンガポールでの研修参加者を対象に事前学習を実施している。

民間のカルチャーセンターより外国人講師を招聘し、夏休み期間に計10回の英会話講座を実施し、シンガポールでの日常会話の基礎を身につけている。

また、シンガポールに関する異文化講話として、立教大学観光学部交流文化学科の舩谷鋭教授を招聘し、渡航直前の講座を実施している。いわゆる絵ハガキ観光にならないよう、多民族・多文化・多宗教を積極的に理解しようとする意識づけを行っている。

② シンガポール研修

平成26年度（2泊4日 1年生6名）本校の特色や石川の観光資源についてのプレゼンテーションを行い、本県への来県を呼び掛け、今後の交流のきっかけ作りを行った。

平成27年度（5泊7日 1年生7名、2年生8名 計15名）テマセク・ポリテクニク校の国際交流施設であるGCV（Glocal Connect Village）での宿泊。英語での授業プログラムの受講。学生の案内によるショートジャーニーを実施した。また、本校の商品開発の授業とWEB中継し、現地の学生に対して開発商品のテストマーケティングを行った。

平成28年度（15泊16日 1年生15名）前年度の研修を発展させ、2週間の短期留学プログラムとして実施した。また、全国産業教育フェア石

川大会の国際交流ブースとWEB中継を行い、テマセク・ポリテクニク校の先生より異文化理解の講義を英語で行ってもらった。さらに、本校生徒が現地で学んだ観光について「シンガポール魅力の旅」を紹介した。

③ 事後学習

シンガポール研修終了の翌週から、北陸大学より講師を招聘し、TOEIC講座を計12回実施している。受講者は全員TOEICを受験させている。平成27年度の最高点は630点であった。

(2) ハワイ・マッキンリー高校との交流

毎年11月に2年生の希望者を対象に、海外語学研修を実施し、姉妹校提携しているハワイ・マッキンリー高校との交流を行っている。学校設定科目「異文化理解」「アクティブイングリッシュ」を選択させ、事前のペンパルとのやりとりや、現地でのプレゼンテーションや書道・茶道のワークショップなどを行っている。

(3) 観光案内を取り入れた英語の授業

金沢市観光協会が作成している英語での観光マップを使い、金沢駅で実際に観光地を尋ねられた場合等を想定し、外国人観光客に対して英語で観光案内ができるよう「Tourist Information」やお勧めの観光スポットを紹介する「My Recommended Places」を設定し、「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」の授業の中に取り入れている。

(4) 国際会計検定「BATIC」の受験

英語を苦手とする生徒に対して、得意の簿記の分野から英語にアプローチすることを考え、課題研究の中で国際会計検定「BATIC」の資格取得に取組んだ。

事後アンケートでは「英語が得意になった」「外国の方々と話してみたい」「外国の財務諸表を読みたい」と回答する生徒も見られ、英語の苦手意識克服への一助になったと考える。



さんフェア石川でのWEB中継

平成 28 年度入学生からは、3 年生での選択科目「国際会計」を設定することとした。

(5) イングリッシュビレッジ

テマセク・ポリテクニック GCV に見習い、本校でも日本にしながら異文化交流ができる機会を設けることができないかと考え、「イングリッシュビレッジ」を開講した。

ESS 部や英語に興味のある生徒を対象に、自己紹介、留学生による外国の学校生活の発表、留学生への日本紹介、クリスマスの外国料理作り等を実施した。ALT や外国語を教える講師、留学生とともに英語に興味を持つ生徒が、様々なアクティビティーを通して英語で活動する場面をつくり、話す必然性を作るように工夫したことで、参加者達はこれまでより自信を持って話すことができるようになってきている。



金商イングリッシュビレッジ

Ⅵ 観光サービスコースの設置

平成 28 年度入学生より 2 年生からの選択として観光サービスコースを設置した。観光に関する学校設定科目を増やし、資格取得と体験型学習の充実を図っている。観光に関する科目については以下のとおりである。特に休日や夏休み等のボランティアガイドを 3 年生での増加単位として認めている点が特徴である。

2 年次「観光実務Ⅰ」(3 単位)

「観光地域学」(2 単位)

3 年次「観光実務Ⅱ」(3 単位)

「観光演習」(3 単位)

「観光ガイド」(1 単位 増加単位)

Ⅶ 旅行者代理業への登録

平成 16 年度からスタートしている金商ライフサポート株式会社(模擬)を今年度中に本格的な株式会社「株式会社王座金商」へ発展させる計画である。定款は完成しており、現在は登記に向けて申請中である。最終的には旅行者代理業登録を目指し、旅行業務取扱管理者の資格取得で学習した内容を実践する場としたいと考えている。

Ⅷ 今後の課題

今後の課題については次の 3 点をあげておく。

なお、本事業の 3 年間の研究成果等については、3 月に発行予定である事業報告書の中で詳しく述べるつもりである。

(1) シンガポール研修の継続の問題

シンガポール研修は今後も継続していきたいが、次年度以降の経費の問題がある。グローバルな人材育成においては効果が大きい研修であるため、参加人数や時期も含めて考えていきたい。

(2) 観光サービスコース選択者の確保の問題

ビジネスコースやカレッジコースに比べると、観光サービスコースの選択者数は決して多くない現状がある。観光というと進路選択の幅が狭まるイメージを持つ生徒や保護者が多い。

広い意味の観光を幅広く伝え、将来のビジョンを具体的に示していく必要がある。

(3) 卒業後の進路の問題

観光系の職業を希望する生徒は増えているが、旅行会社や宿泊業等の求人がある年に希望者がいなかったり、逆に希望者がいるときに求人がなかったりとうまく進路に結びつかないことがある。

今後は、観光系の大学が増えていることから、大学進学も視野に入れるなど、早い学年から観光に関する幅広い進路を示し、目標設定をさせていきたい。